

火災安全の専門家としては、これまで図 1 のように原発、自動車、鉄道車両、建築物の火災を、統計で比べて火災防護の話をしてきました。まあ、燃えにくい材料を使わないといけないとか、消火のための工夫を考えるなどの視点の整理です。

ところが、この特別委員会で作業を始めて、ハタッと気づいたことがあります。

火災屋はどうしても火災が起こることを前提にシステムの安全を考えてしまいますが、火災のことを忘れて、何もない状態で、電源喪失により制御機能がすべて失われる状況での安全を考えてみました。

原発以外の 3 つは外的事象（要、定義）が起こっていない状況で、電源喪失により制御機能がすべて失われても案外、大丈夫です。自動車、鉄道車両では当然、運転制御が困難になりますが、運転者が対応することがもともとの設計コンセプトに含まれていて、短期に問題が決着すると考えられますし、坂道でブレーキが効かなくなって、というところがクリティカルでしょう。建築物の場合は、エレベータが停止して閉じ込められるのが最大の問題？という風に、安全を考えるうえで余り気にしていません。

ところが、原発の場合は、大大問題！電源が止まった瞬間に、鋭い緊張が走る、と考えていいでしょう。（この話は続きます）

